

1 計画策定の趣旨

今日では、我が国の平均寿命が伸長し、世界最高水準の長寿国となる一方、少子高齢化や、一人暮らし高齢者の増加、核家族化の進行、人々の価値観や生活様式の多様化に加え、地域社会での人間関係の希薄化などによる、高齢者の孤独死、地域社会からの孤立、子育て不安、家庭内暴力、虐待、ひきこもり、自殺など、様々な社会問題が生じています。

このように、個人や世帯が抱える生きづらさやリスクが複雑化・多様化している中、住み慣れた地域でだれもが自分らしく充実した生活を安心して送れるような地域づくりが求められています。

国においては、制度・分野の枠や「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会とがつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる、包摂的なコミュニティ、地域や社会を創っていく「地域共生社会」の実現にむけた取り組みを進めています。

西蒲区においても、地域福祉をより一層推進し、「地域共生社会」を実現するため、西蒲区地域福祉計画（以下「区計画」という。）を策定します。

包摂的なコミュニティとは

社会的に弱い立場にある人々をも含め市民一人ひとり、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し地域社会の一員として取り込み支え合う考え方のこと

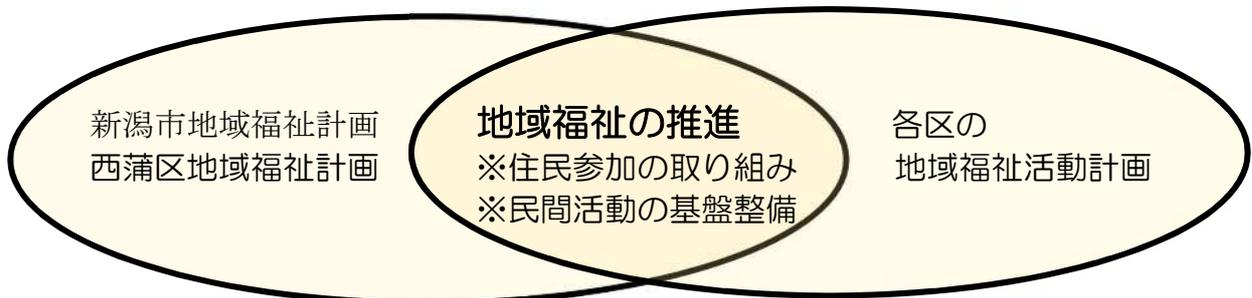
2 計画の位置づけ

1. 関係法令による位置づけ

(1) 社会福祉法

社会福祉法第106条の3第1項により、市町村は、地域住民等及び支援関係機関による、地域福祉の推進のための相互の協力が円滑に行われ、地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制を整備するよう努めることとされました。

また、同法107条第1項により、市町村は、地域福祉の推進に関する事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定するよう努めることとされ、本計画は包括的な支援体制を明確にする「市町村地域福祉計画」として位置づけます。



2. 新潟市地域福祉計画（以下「市計画」という。）との関係

新潟市市は市町村合併により市域が広くなり、地域によって実情が異なります。相当の面積を有する市町村においては、管内を複数に分割するなど、地域の実情を十分にくみ取って計画を策定することができるよう工夫することが望ましいとされていたことから、平成21年度に区単位の地域福祉計画を策定しました。

その後、全市的な理念・目標を記載し、区計画の具体的な取り組みを後押しするため平成27年度に区計画とともに市計画を策定しました。

地域づくりの最前線である区計画には、区の特성에応じた目標や取り組みを中心に記載します。また、区計画の具体的な取り組みを後押しする市計画には、全市横断的な理念・目標を記載し、区計画と市計画を併せ、地域福祉計画となります。

3. 西蒲区地域福祉活動計画との関係

西蒲区地域福祉活動計画は、西蒲区社会福祉協議会の呼びかけにより、住民や関係者が相互に協力して策定する民間の活動・行動計画です。同計画と区計画は地域福祉の推進を目的としてお互いに補完・補強し合う関係にあることから、区ごとに一体的に策定します。

3 計画の期間と評価について

この計画の期間は令和3年度から令和8年度までの6年間とします。

本計画については、毎年度その達成状況を点検しながら進行管理を行います。詳しくは第5章で述べています。

H21～H26年度 (2009～2014年度)	H27～R2年度 (2015～2020年度)	R3～R8年度 (2021～2026年度)
第1期地域福祉計画	第2期地域福祉計画	第3期地域福祉計画
区計画・ 区地域福祉活動計画	市計画 区計画・ 区地域福祉活動計画	市計画 区計画・ 区地域福祉活動計画

4 計画の策定方法

(1) 意見の把握

計画の策定に当たっては、次の方法で区民の意見を聴き、その意向の反映を図りました。

①地域福祉に関するアンケート

新潟市の地域福祉に関するアンケート調査及び西蒲区社会福祉協議会が独自に実施した地域福祉活動計画に関するアンケート調査で福祉面での実態・要望を把握し傾向やニーズを分析することにより計画策定の貴重な資料を得ました。

②地域別福祉座談会

西蒲区社会福祉協議会では、区内9のコミュニティ協議会で地域の特性を反映した「地域福祉活動計画」の作成に向け、福祉座談会を開催しました。前計画を振り返るとともに、今後、地域福祉を推進するうえでの課題を明確にし、地域の目標を定めました。

福祉座談会開催状況

コミュニティ協議会	開催日時	会場	参加人数
巻地区まちづくり協議会	9月2日 9:30～11:00	巻ふれあい福祉センター	25人
	10月9日 9:30～11:00		24人

漆山地域コミュニティ協議会	8月24日 19:00～20:30	漆山地区公民館	25人
	9月24日 19:00～20:30		26人
峰岡地区コミュニティ協議会	8月28日 19:00～20:30	峰岡公民館	23人
	9月30日 19:00～20:30		19人
松野尾地域コミュニティ協議会	8月21日 14:00～15:30	松野尾コミュニティセンター	19人
	9月25日 14:00～15:30		19人
角田地区コミュニティ協議会	8月27日 10:00～11:30	角田コミュニティセンター	23人
	10月7日 10:00～11:30		22人
岩室地区コミュニティ協議会	8月20日 10:00～11:30	岩室保健センター	23人
	9月24日 10:00～11:30		20人
西川地域コミュニティ協議会	8月28日 10:00～11:30	西川出張所	21人
	10月15日 10:00～11:30		22人
潟東地域コミュニティ協議会	8月25日 13:30～15:00	潟東出張所	20人
	9月29日 13:30～15:00		21人
中之口地区コミュニティ協議会	8月25日 10:00～11:30	中之口コミュニティセンター	21人
	10月8日 10:00～11:30		20人

(2) 策定体制

本計画の策定に当たっては、コミュニティ協議会代表、民生委員児童委員代表、社会福祉事業関係者、社会福祉に関する活動を行う者、学識経験者19人による「西蒲区地域福祉計画・西蒲区地域福祉活動計画推進委員会」にて審議を行いました。

5 新潟市地域福祉計画の基本理念・基本目標

第2期地域福祉計画の基本理念・基本目標を踏襲しながら、「本市の現状」や「国の動向」を踏まえ、以下のとおり基本理念と基本目標を定めます。

この基本目標・基本理念は、地域共生社会の実現という考え方を加え、市民全体で取り組んでいくことを表現しています。

1 基本理念

**みんなで創ろう だれもが人や社会とつながり 支えあい
自分らしくいきいきと暮らせる福祉の都市（まち）『にいがた』**

新潟市に住み慣れた人も、新潟市民になったばかりの人も、あるいはこれから新潟市で暮らす人も、子どもからお年寄りまで、障がいのある人もない人も「だれも」が、ただ暮らすだけではなく、人と人、人と社会がつながり、支えあうことにより、個人の尊厳と多様性を尊重し、その属性に関わらず、自分らしく地域で暮らし、活躍できる「福祉の都市（まち）『にいがた』」を、地域住民・地域団体・行政・関係機関を含む「みんな」の力で創造していくという考え方を表現した新潟市地域福祉計画の基本理念です。

2 基本目標

1 お互いを認めあい、支えあう意識を持った地域づくり

地域住民、社会福祉事業者、社会福祉活動従事者（以下「地域住民等」という。）が主体となって課題を抱える人に気づき、また、性別や年齢などの属性に関わらず、お互いを認めあい、支えあうことにより、本人のみでなくその属する世帯や、自ら声を上げることができない人を含む新たな気づきを見つける意識を醸成するという考え方を表現した基本目標です。

2 だれもが地域の一員としてつながり、受け止め、協働する地域づくり

地域において、福祉・介護・介護予防・保健医療・住まい・就労・教育に関する課題や、社会的孤立、日常生活を営みあらゆる分野の活動に参加する機会が確保される上での各般の課題を、包括的に受け止める体制を整備し、地域住民等や行政といった「だれも」が、地域の一員としてネットワークを作ることにより、地域住民等が主体的に発見した課題を抱える人・世帯を受け止め、協働して支援する地域を作っていくという考え方を表現した基本目標です。

3 地域住民等が役割を持って活躍できる地域づくり

地域住民等が、「支える」「支えられる」という一方向の関係性でなく、それぞれの個性を生かし、役割を持って活躍することのできる地域を作っていくという考え方を表現した基本目標です。

4 自分らしく安心・安全に暮らし続けられる地域づくり

気づき、つながり、受け止め、だれもが役割を持って活躍し、本人の意思を尊重した支援を続けるためには、安心・安全に暮らし続けられる地域が必要であり、そのような地域を作っていくという考え方を表現した基本目標です。

◎基本目標における「地域づくり」の考え方

- ・ 「地域」は単にエリアを指すのではなく、その地域の住民・地域コミュニティ協議会や自治会などの組織及び生活環境を含む意味で使っています。
- ・ 担い手や人材の育成、ネットワークづくりについても、この「地域づくり」に含まれています。

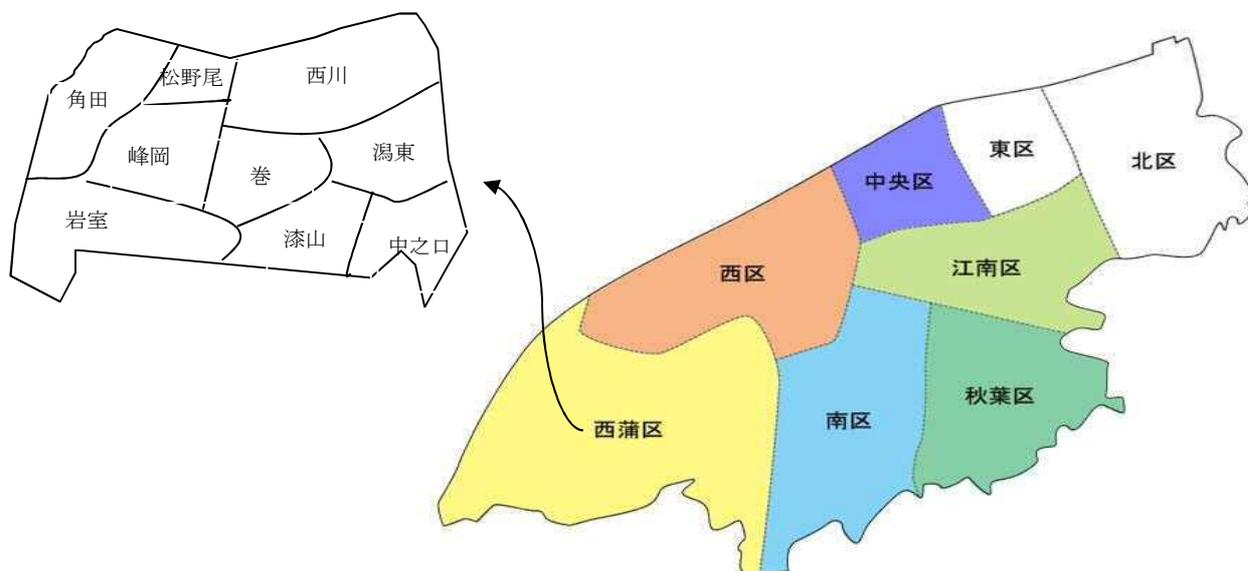
1 西蒲区の概況

西蒲区は新潟市の西部に位置しており、日本海に面する約15kmの海岸線を有し、南区、西区及び長岡市、燕市、弥彦村と隣接しています。

区内は、地域コミュニティ協議会の単位で9つの地区（巻、漆山、峰岡、松野尾、角田、岩室、西川、潟東、中之口）から構成されており、面積は、176.51km²と市内8区の中で最も広く、全市の約1/4を占めています。

区の人口は、56,247人、世帯数は20,604世帯（R2.3月末）と8区の中では、南区に次いで少なくなっています。また、高齢化率は33.1%（R2.3月末）と、8区の中で一番高くなっています。

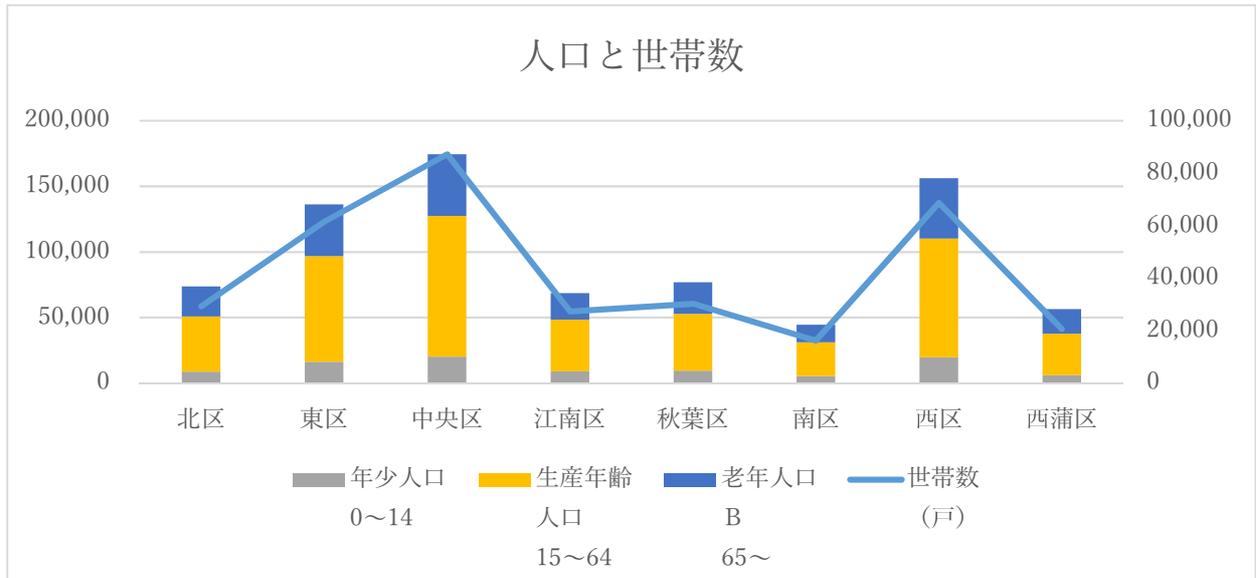
西蒲区にも、家族構成の変化に伴う孤独死といった様々な問題が生じています。



2 データでみる西蒲区

	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	新潟市
面積 (km ²)	107.72	38.62	37.75	75.42	95.38	100.91	94.09	176.55	726.44
人口 (人)	73,598	136,113	174,346	68,451	76,751	44,402	156,098	56,247	786,006
人口密度 (人/km ²)	683.2	3,524.4	4,618.4	907.6	804.7	440.0	1,659.0	318.6	1,082.0
世帯 (戸)	29,327	61,485	87,243	27,353	30,248	16,229	68,751	20,604	341,240
1世帯当 たりの人 数 (人/戸)	2.51	2.21	2.00	2.50	2.54	2.74	2.27	2.73	2.30
高齢化率 (%)	31.1%	29.0%	26.9%	29.5%	31.4%	29.9%	29.4%	33.1%	29.4%

面積は令和元年12月末新潟市統計グラフ、人口、世帯数は令和2年3月末住民基本台帳

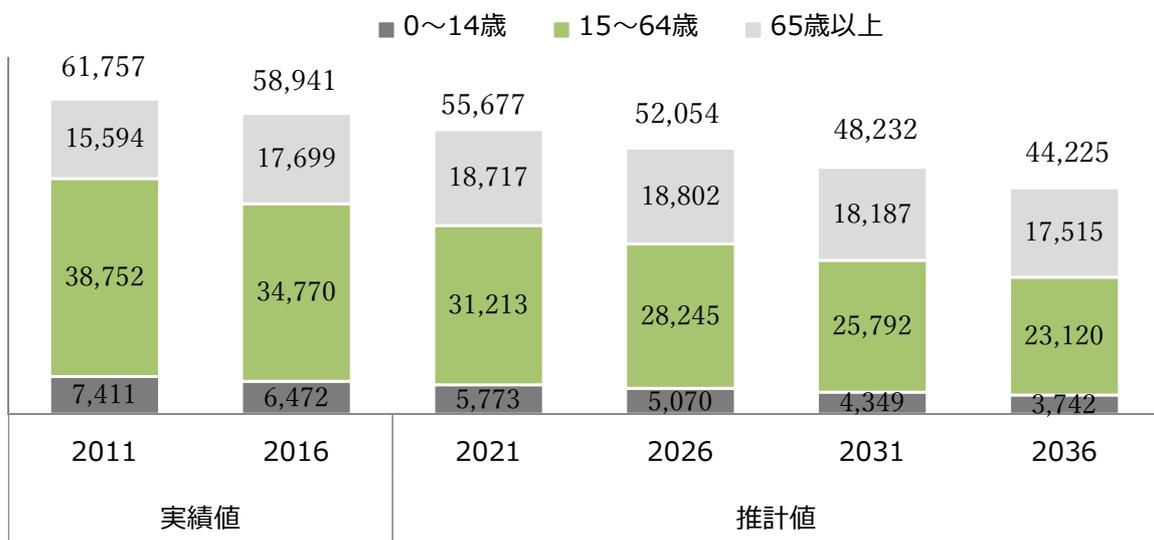


令和2年3月末 住民基本台帳



令和2年3月末 住民基本台帳

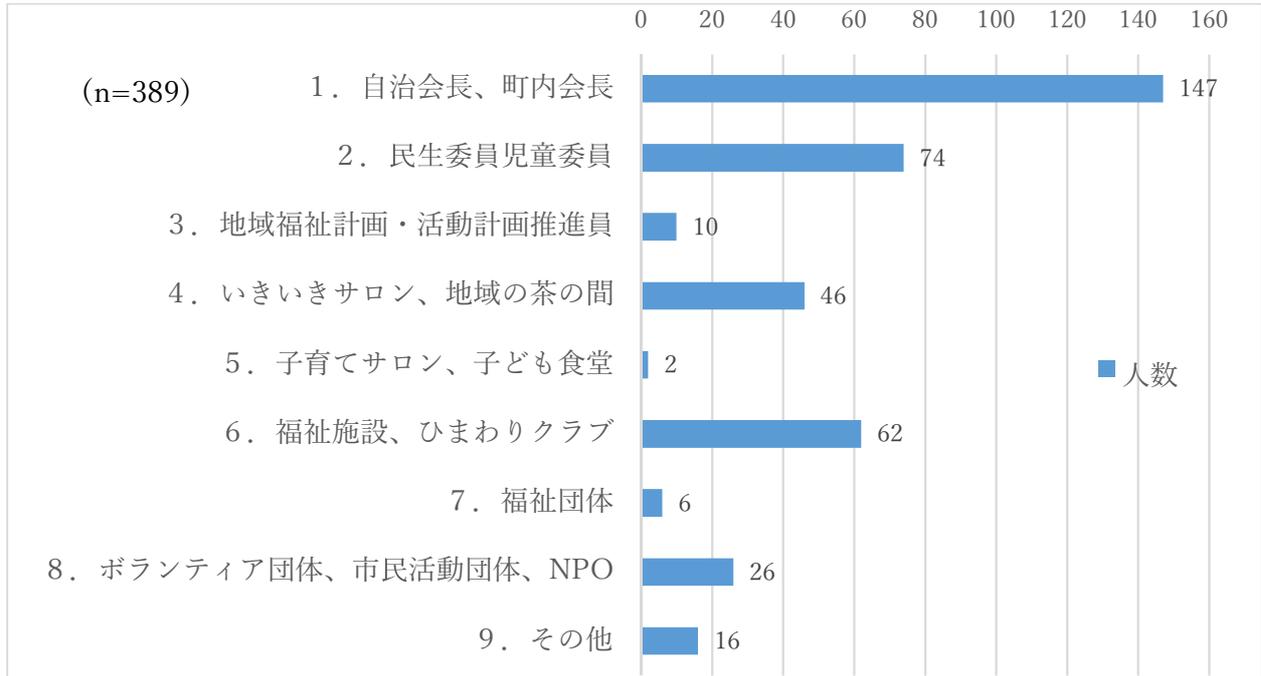
人口推計：年齢3区分別人口推移



西蒲区地域カルテを独自集計

3 地域福祉活動計画に関するアンケート調査結果の概要

問1. 貴方や貴団体(施設)の所属をお聞きます。(あてはまる番号全てに○をつけてください)

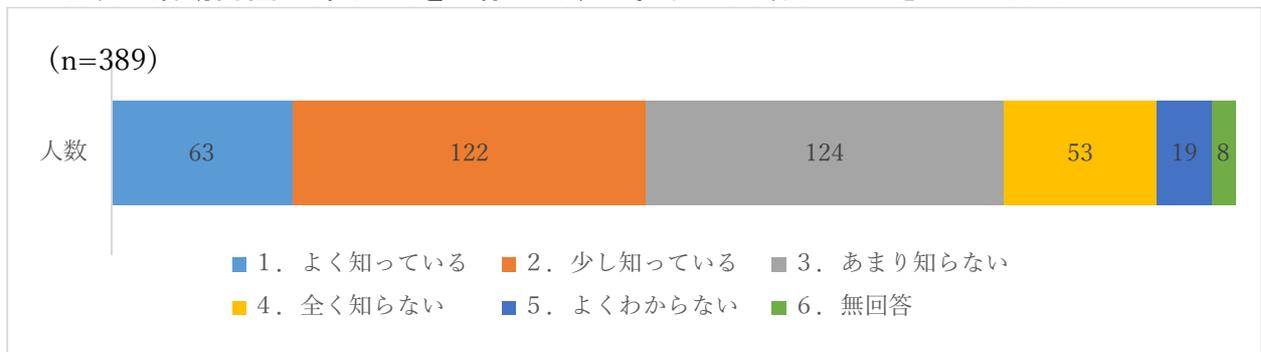


問2. 貴方や貴団体(施設)の所属する
コミ協の地域はどちらですか

【考察】 回答者に年齢は質問していないが、民生児童委員の平均年齢は4月1日現在で67歳である。自治会・町内会長はもう少し年配と考えられることから、全回答者の平均年齢は67歳を超えていると想定される。

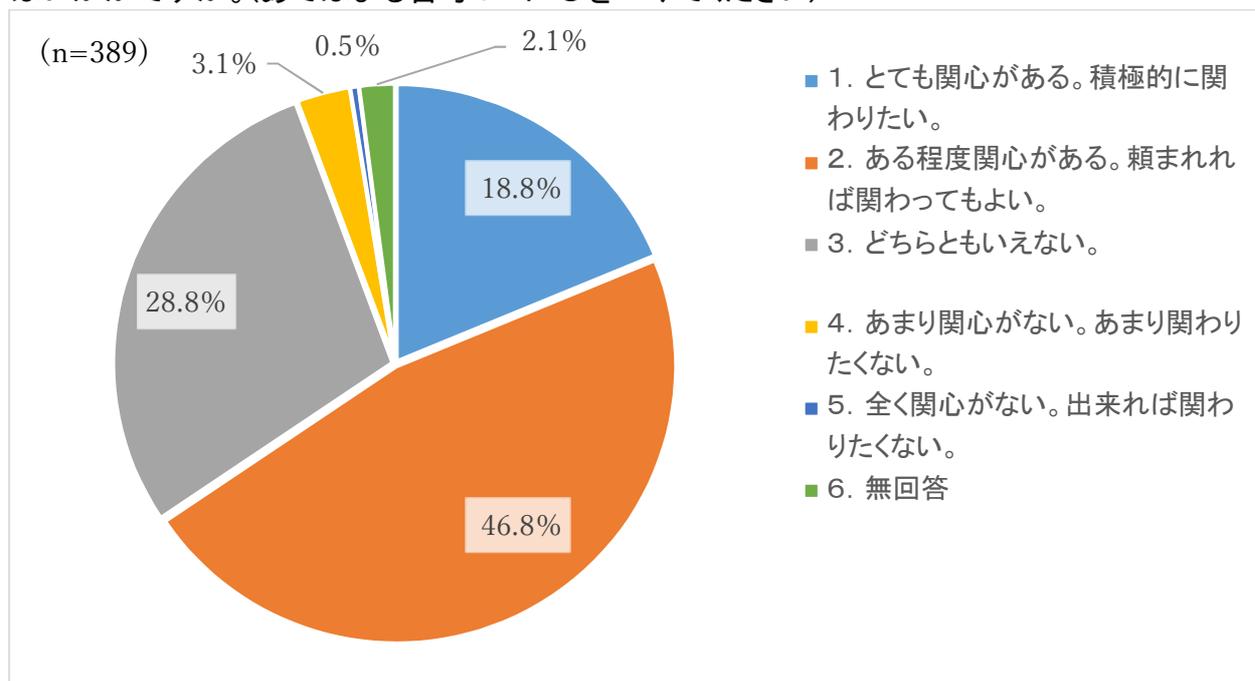
巻	78人	岩室	80人
漆山	28人	西川	81人
峰岡	20人	潟東	33人
松野尾	8人	中之口	45人
角田	7人	複数エリア	9人
		合計	389人

問3. 「西蒲区地域福祉計画・地域福祉活動計画(2015～2020版)」(平成27年3月発行)の中に「地域の活動計画があることをご存知ですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)



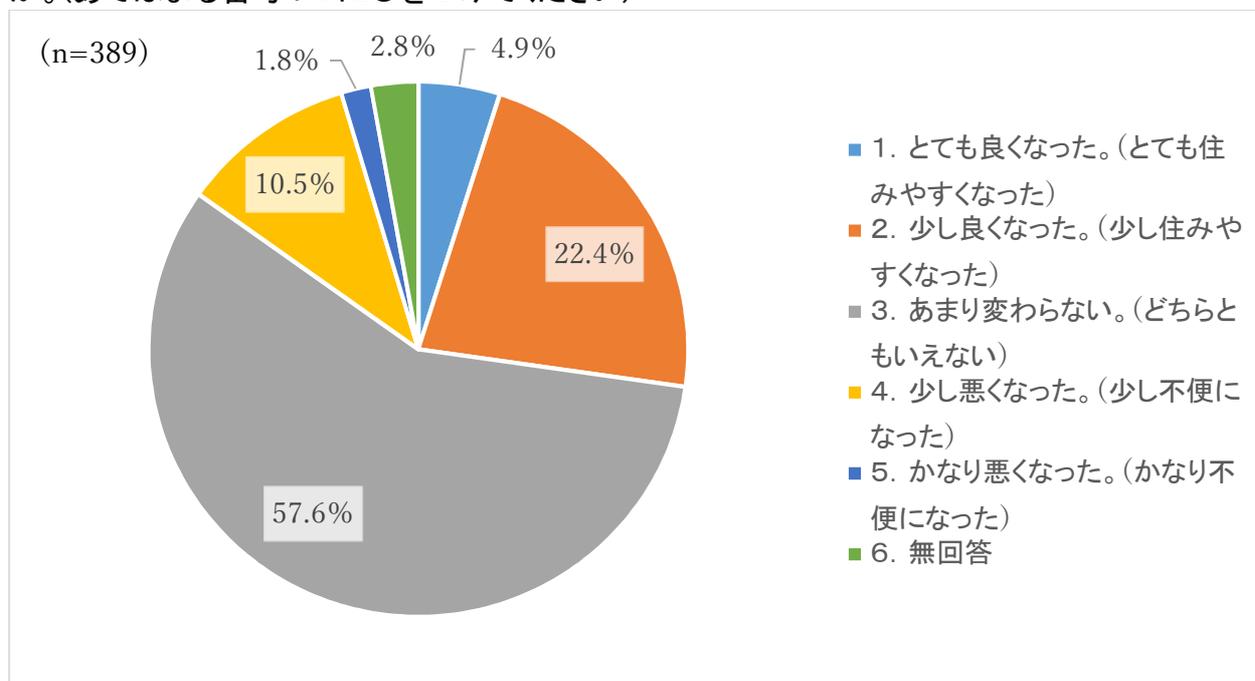
【考察】 福祉関係者への問いなのだが、半数以上の人々が「知らない」と回答。福祉の推進に向け、計画の浸透が必要である。

問4. 地域の福祉や課題に対し、関心をお持ちですか。また、地域活動参加に関するお気持ちはいかがですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)



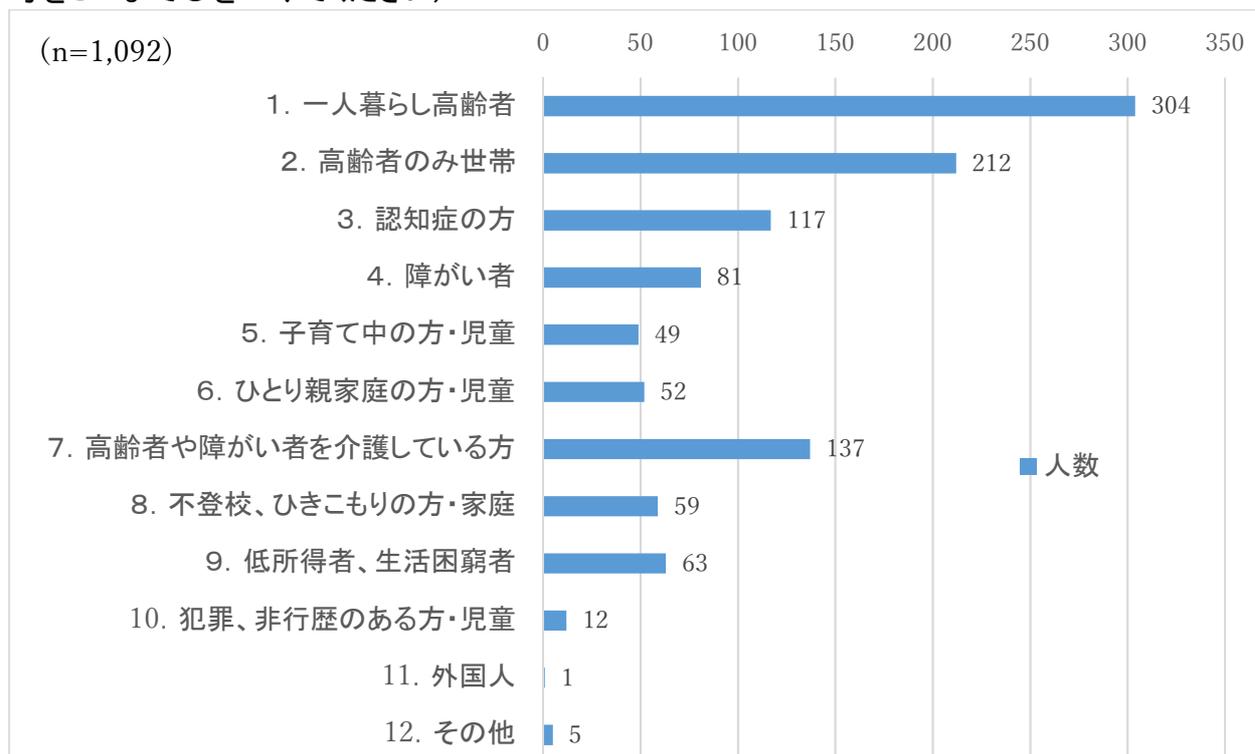
【考察】 どちらともいえない人約3割に対して、地域の福祉課題を明らかにして、関心を持ってもらうことが重要である。

問5. 居住・活動・立地地域についてお聞きします。この10年ほどの印象度に変化はありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください)



【考察】 全体では、良くなった人が27%、悪くなった人が12%で、巻コミ協では良くなった、西川コミ協では悪くなったという回答が目立つ。

問6. 地域の中で特に支援が必要と思われる方はどんな方々だと思いますか。(あてはまる番号を3つまで○をつけてください)



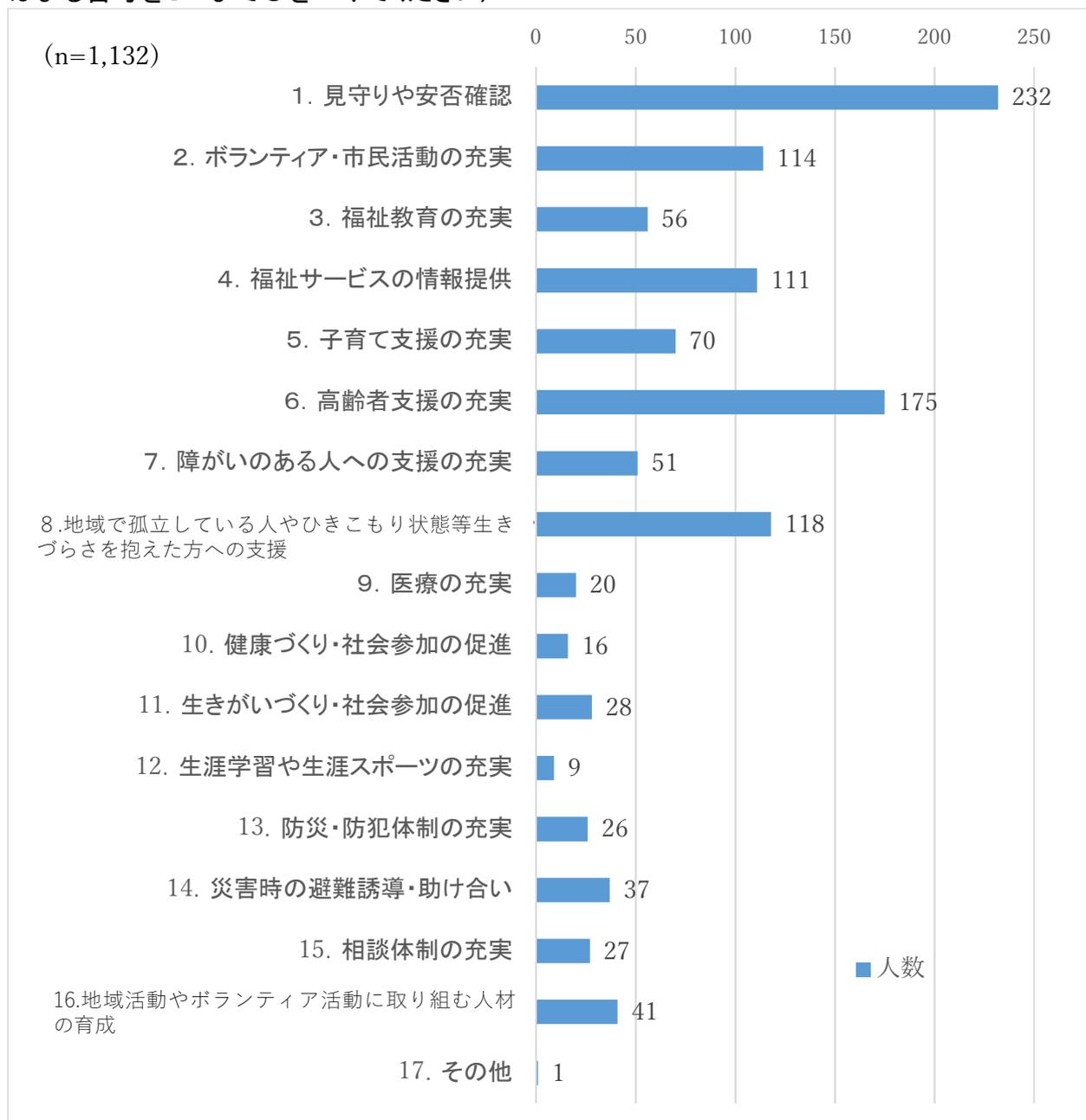
【考察】 1、2、3、7は主に高齢者に関する回答で合わせて770人、70%が高齢者の支援が必要と回答している。次に障がい者、次に低所得者、生活困難者の支援が必要となっている。

問7. 地域の支え合い、助け合い活動を活性化するためには、何が重要だと思いますか。(あてはまる番号を3つまで○をつけてください)



【考察】 地域の調整役となる人材の育成が一番求められている。座談会でも若い人の参加、活躍を期待する意見が多かった。

問8. だれもが安心して暮らしていくために、地域で特に重要なことは何だと思いますか。(あてはまる番号を3つまで○をつけてください)



【考察】 「見守りや安否確認」、「高齢者支援の充実」が多く、次いで「地域で孤立している人や、ひきこもり状態等生きづらさを抱えた人への支援の充実」が挙げられた。孤立者やひきこもり状態の人が顕在化している。

次いでボランティア・市民活動の充実であるが、16. 地域活動やボランティア活動に取り組む人材の育成と関連することからボランティアへの関心はかなり高い。

問9. 貴方や貴団体（施設）の地域では、どのようにして地域の中の困りごとに気づくとよいでしょうか。

- ① 「自治会」「民生児童委員」が情報共有の受け皿となり、困りごとの情報を地域住民から吸い上げ、つなぐ窓口として機能している。困りごと→班長→自治会長→関係機関につなぐという流れで集約されている地区もある。
- ② 地域の茶の間や老人クラブ、自治会会議や行事など「交流の場」「集まる場」が困りごとの気づきの拠点となっている。
- ③ 民生委員や自治会活動などで「見守り」「声かけ」に関する活動が行われている。

【取り組んでほしいこと】

- ① 自治会やコミ協、民生児童委員、行政機関、福祉関係機関などが連携し、情報共有や情報提供を行う。また、身近な相談窓口を増やす。
- ② 見守りや声かけという近所付き合い、助け合いの心を広げ、困ったときに声を上げやすい地域づくり。
- ③ 要援護者の見守り活動や、若者や子供とのかかわり、世代間をつなぐ活動を推進し、地域から孤立しない、孤立を予防できる体制づくり。

問10 貴方や貴団体（施設）の地域では、どのようにして助け合える地域づくりができるでしょうか

- ① 隣近所、自治会や民生児童委員、支え合いの会、地域の茶の間などの活動を通して、助け合っている。日頃からの関係づくりも重要である。
- ② 地域の茶の間や地域行事などの交流の機会を通して、互いに助け合う関係をつくっている
- ③ 防災訓練で災害時の対応として、班単位の安否確認を行っている。また、防災無線を活用した小学生への見守り活動ができている

【取り組んでほしいこと】

- ① 助け合い、支え合い活動を推進し「助けてほしい」「助けることができる」といった声を、互いに上げやすい地域に。
- ② 世代間交流の機会を工夫し、次世代が活躍できる、地域づくりに参加しやすい形をつくり、世代間ギャップを埋め、多くの人にボランティア活動などを働きかける
- ③ 困りごとがある家庭への組織的支援や茶の間や行事に参加できない人への交通手段の確保

問11 貴方や貴団体（施設）の地域では、防災・防犯など地域の安心・安全を支える体制はありますか。

- ① 自主防災組織をつくり、防犯、防災体制を整備している。班長が班内の情報を集め災害時の避難に役立っている。学校や地域包括支援センター等との連携や、防犯カメラの設置に取り組んでいる。
- ② 小学生に対する見守り活動、児童の登下校時の見守りや声かけ
- ③ 地域見守り隊を結成した。
- ④ 要支援者名簿のほかに病弱、日中一人になる高齢者などを上げて、支援者を決めている

【取り組んでほしいこと】

- ① 具体的な災害や状況（水害や風害、高齢者や障がい者等の避難方法等）を想定した訓練や、災害時に高齢者宅や障がい者の人をどのように助けるかというマニュアルの整備、災害発生時、だれ一人取り残さないための具体的な行動計画
- ② 各個人の意識が高まるような周知活動、防災意識の醸成
- ③ 自主防災組織の構成メンバーが高齢化しているので世代交代が必要
- ④ より小さいエリアでの地域福祉活動を推進するコーディネーター

問12 貴方や貴団体（施設）の地域では、福祉を担う人材は育っていますか。

- ① 地域の茶の間や民生児童委員、自治会やボランティアグループが活発に活動しているが、民生委員に頼りっきりになっている部分がある
- ② 自治会と民生委員が合同研修会を開き、互いに学習している
- ③ 福祉目標を5か所の掲示板に掲載し、地域全体に啓発するとともに、福祉活動に協力を要請している
- ④ 茶の間を手伝うなど小学生の見守りボランティアがある

【取り組んでほしいこと】

- ① 講習会、研修会、ボランティアを育成するような活動などで次世代が福祉に関わる機会を増やす
- ② 有償ボランティアや組織化などの工夫を行い、若者世代の地域活動への参加を促す
- ③ 世代間で活動を引き継ぐ仕組みづくり（現在の福祉人材が高齢化している）、自治会間の連携、活動原資の充実

問13 貴方や貴団体（施設）の地域では、どのようにして地域の問題について情報共有していますか。

- ① 自治会報の発行や回覧板等の周知、自治会の集まり、地域の茶の間や老人クラブ、こども会が情報共有の機会となっている。
- ② 個別の相談に対し、地域の問題であるにとらえている
- ③ 地域包括支援センターと情報共有している
- ④ コミ協役員レベルでの勉強会（福祉懇談会等）や福祉講演会の実施

【取り組んでほしいこと】

- ① 福祉関係機関と地域住民が情報共有する仕組みや、行政機関や専門職などとの情報交換の場作り（横のつながり）、情報伝達の発信の工夫（個人情報の問題に対し、正しい情報を広め、情報が共有されるようにしてほしい）
- ② 交流、つながりの強化、自治会と若者が情報交換を行えるような世代間交流の機会
- ③ 困りごとに関するアンケート調査

問14 貴方や貴団体（施設）の地域では、健康寿命の延伸に向けた地域の取り組みはありますか。

- ① 地域の茶の間や老人クラブ、健康教室で健康づくりに関する活動（健康教室、体操、講座、各スポーツ）をしている
- ② 多世代交流の機会（O u c h i 広場）

【取り組んでほしいこと】

- ① 地域の茶の間や健康教室、出前講座などのさらなる充実として、定期的なイベントの開催と取り組みの情報の提供、男性が生きやすいサロンなど。
- ② ウイルス禍への対応方法や閉じこもりがちの人への働きかけ
- ③ 多くの高齢者が参加できるような対策（参加できない人への対策）と移動に関するサービス（デマンドタクシーなど）

問15 貴方や貴団体（施設）の地域では、住民の皆さんが地域の一員として活躍できる機会がありますか

- ① 地域行事、清掃活動、植栽活動、防災訓練等の活動がある。自治会組織の中に実行委員（昔の青年団のような集まり）を位置付け、公園の除草作業や夏と冬のまつり等を計画、運営している
- ② 地域の茶の間、老人クラブ、こども会での役割（ボランティア）

【取り組んでほしいこと】

- ① 高齢者の活動は充実している（ボランティア等）が、子育て世代や障害を持った方、ひきこもりの方が安心して活躍できる地域になってほしい

問16 貴方や貴団体（施設）の地域に於いて、自慢できる取り組み事例や、今後のまちづくりの参考になるご意見などがありましたらご記入ください。

- ① 積雪があった際に高齢者の住居を優先的に除雪し孤立しないよう仕組み化している
- ② 様々な地域行事（農業・茶の間・健康教室・子どもとの触れ合い、伝統的なまつりや行事等）があり、子どもから高齢者まで地域住民一丸となって取り組んでいる。
- ③ 災害時、異常なしの世帯はプレートを掲示し、見回り隊の確認に役立っている
- ④ 毎年行われる「新春大いに夢を語ろう会」が34年も続いている。
- ⑤ 会での体操が12年続いている。午前中の参加者はお友達に会うことと体操が目的で来ていると思う。
- ⑥ コミュニティ新聞、高砂学級、男性が集うおやじ塾は自慢できる活動
- ⑦ 地域の自然環境の保護、管理を住民が協力して行っている。

【取り組んでほしいこと】

- ① 敬老会の開催、こどもとお年寄りが交流する場、もっと話し合いの場があったほうが良い
- ② 自治会や地域の茶の間、ボランティアグループ等が中心となり、困りごとをキャッチすること。今の他人の困りごとは、これから先の自身の困りごとと考える気風を広げる
- ③ 高齢者の移動に関して、もっと交通手段の充実を図ってほしい
- ④ 一人ひとりが地域の問題に目を向け、多少なりとも取り組みに参加協力してほしい
- ⑤ 外出困難者の地域活動への参加をサポートする活動を行ってほしい
- ⑥ 増加が懸念される孤立、孤独への積極的な取り組み
- ⑦ 各コミ協での取り組みを発表し合う場があるとお互い刺激や参考になると思う
- ⑧ 各集まりに参加するメンバーが固定化されている。閉じこもりがちな人が参加できるような機会を考えてほしい